

川口市食育推進計画（第2次）案に関する意見

	該当箇所	意見の概要	市の考え方	案の修正
1	【第4章 第3節】 「川口の食文化 知ろう 創ろう つなげよう」	南平地区を中心に江戸時代後期から芝川などの舟運を使い味噌産業が盛んであったという歴史があり「川口の味噌の復活」を川口らしい食生活の醸成の1つとして加えて載きたい。	川口の麦味噌について、その歴史や味が広く知られるようになることは川口らしい食文化の創造や醸成につながるものであり、麦味噌の復活、普及活動を行っている団体との連携や協力は、重点施策「食に関するボランティアを支援し、各種団体と連携します。」につながるものと考えます。	①計画案、第4章 第3節(P48)を別添のとおり修正します。 ②計画案 第4章に別添「食育推進施策の展開にあたって」(P50-51)を追記します。
2	【第3章 目標3】 【第4章 第3節】 「川口の食文化 知ろう 創ろう つなげよう」	川口市の食文化には、鳩ヶ谷地区のソース（ソース焼きうどん）や麦味噌等の調味料もあり、それらを明記することで郷土食への関心が高まりやすくなり、目標1～3や重点施策である「食を通じてのコミュニケーション」などにも繋がると思う。	鳩ヶ谷地区のソース焼きうどんについても上記と同様に川口らしい食文化の創造や醸成につながるものと考えます。	①計画案、第4章 第3節(P48)を別添のとおり修正します。 ②計画案、第4章に別添「食育推進施策の展開にあたって」(P50-51)を追記します。
3	【第4章 第3節】 「川口の食文化 知ろう 創ろう つなげよう」	鋳物汁、衛生煮の名称はその内容が伝わらず、料理としての美味しさが想像できない。「〇〇汁（鋳物汁）」「△△△煮（衛生煮）」と呼称を改めるべく広く市民から公募してはどうか。	郷土食・伝統食に関しましては、PR活動が重要であり、今回の貴重なご意見を元に、計画策定後の研究・検討事項とさせていただきたいと考えます。	無
4	【第4章 第2節】 「食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます」	「子ども食堂」は幅広く「食育」を実践し体験する場となっており「こ食」の改善にも大きく寄与している。子ども食堂は基本的に民間のボランティアで運営されており運営費用支援に限らず行政として支援可能な方策を模索するべき余地があるのではないか。	こ食の問題は、今回の計画におきまして、はじめて数値目標に掲げました。子ども食堂事業を行う団体を含め食育関係団体との連携や支援は、研究・検討する必要があると考えます。	食や食育に関する団体との連携を強調するため、計画案、第4章に別添「食育推進施策の展開にあたって」(P50-51)を追記し、その中でボランティア団体との連携について記載します。
5	【第2章(p11) 食育コラム】 「埼玉県健康づくり協力店とは？」	埼玉県健康づくり協力店のより一層の普及促進は「食育」推進に有効な手段であると考えられるため川口市独自の取組を付加してはどうか。全体として告知活動の強化策に検討の余地があるのではないかと。	埼玉県健康づくり協力店の普及啓発は、様々なライフスタイルに応じた食育の推進や食に関する産業団体との連携にもつながるものと考えられ、普及促進活動について研究・検討する必要があると考えます。	計画案、第4章に別添「食育推進施策の展開にあたって」(P50-51)を追記し、その中で産業団体との連携について記載します。
6	(1)【第3章 目標2 (p33)】 「基本目標の目指す姿と主な取組み内容」	(1) 食品ロス削減のため、家庭・地域・団体・行政が丸となって取り組む必要があるため「地域・団体」「行政」の取組みにも明記すべき。	食品ロスの削減については、家庭だけでなく、地域・団体、行政丸となって取り組むべき課題であることは指摘のとおりであり、計画に追記します。	①計画案、第3章 (P33) を別添のとおり修正します。 ②食や食育に関する団体との連携を強調するため、計画案、第4章に別添「食育推進施策の展開にあたって」(P50-51)を追記しその中でボランティア団体との連携について記載します。
	(2)【数値目標】	(2) 数値目標について、「食品ロスの問題について関心がある」だけでなく「実践する人」の割合を入れたほうがよい。	国の「第3次食育推進基本計画」では、「食品ロスの削減のために何らかの行動を起こしている国民の割合」を現状の67.4%から80%以上に向上させる目標値を設定しており、当市においても実践割合の増加は必要と考えておりますが、この項目が今計画から設定された目標であることから、まずは意識啓発を目指す数値で計画を策定いたしました。	無